

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：32606

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01486

研究課題名（和文）IT化と国際化が企業ダイナミクスに与える影響：日中韓の企業の比較分析

研究課題名（英文）The Impact of IT and Globalization on Firm Dynamics: A Comparative Analysis of Japanese, Chinese, and Korean Firms

研究代表者

乾 友彦（INUI, TOMOHIKO）

学習院大学・国際社会科学部・教授

研究者番号：10328669

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 14,910,000 円

研究成果の概要（和文）：日本、中国、韓国の上場企業の全要素生産性（TFP）の上昇率を計測し、TFP上昇率の比較及び生産性ダイナミクスを分析した。分析の結果、日本、韓国の製造業のTFP上昇率の変動には、企業内部におけるTFP上昇率の変動が大きな役割を果たしていることが判明した。日本企業に関して、AI、ロボット技術の発展が生産性や事業所のダイナミクス、海外事業との分業体制に与える影響について分析を行った。その結果、AI等の技術の導入は生産性を上昇させるが、雇用へのマイナスの影響は確認されなかった。中国企業に関しては、グローバル・バリューチェーンにおける上流に位置すること及び生産性等にプラスの影響を与えることが判明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は日本、中国、韓国における企業の生産性ダイナミクスにIT化と国際化の進展が与える影響に焦点を当てて定量的に比較することが主目的である。研究の結果、日本、韓国の製造業のTFP上昇率の変動には、企業内部の内部効果の変動が大きな役割を果たしていることがわかった。ただ、韓国の製造業のTFP上昇率は低迷している。中国の製造業のTFP上昇率に関しては内部効果に加えて、TFPの高い企業の参入効果が重要な役割を果たしている。日本企業内部のTFP上昇率の向上にはAI、ロボットといった先端技術の導入が重要な役割を果たしていることが判明した。中国企業では国際化の進展が生産性の向上に寄与している。

研究成果の概要（英文）：We measured the rate of increase in total factor productivity (TFP) for listed companies in Japan, China and South Korea, and compared the rate of increase in TFP and analyzed productivity dynamics. As a result of our analysis, we found that fluctuations in the rate of increase in TFP within firms play a major role in fluctuations in the rate of increase in TFP in the manufacturing industries of Japan and South Korea. We analyzed the impact of the development of AI and robotics technology on productivity, business dynamics, and the division of labor with overseas operations in Japanese firms. As a result, the introduction of advanced technologies such as AI was found to increase productivity, but there was no negative impact on employment. Regarding Chinese firm analysis, it was found that being located upstream in the global value chain has a positive impact on productivity.

研究分野：経済学

キーワード：企業ダイナミクス 国際調達 生産性 ICT AI ロボット グローバル・バリューチェーン 非関税障壁

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 国全体の生産性上昇は、研究開発投資、人的資本の蓄積、企業の国際化といった企業内部における生産性改善の努力のみならず、生産性が相対的に高い企業の参入と相対的に低い企業の退出や、生産性が高い企業がより拡大し、生産性が低い企業が縮小する企業ダイナミクスのプロセスによってももたらされる。欧米諸国を対象とした企業ダイナミクスに関する一連の研究結果では、企業ダイナミクスが国全体の生産性上昇の約 5 割を説明する結果が得られている。しかしながら、日本を対象として分析した一連の研究から、日本においては企業ダイナミクスが生産性の上昇に大きな影響を与えていなかったことが判明している。また米国の研究では IT 投資が労働生産性の向上に大きく寄与したことを指摘されているのに対して、日本の研究では IT 投資が米国と比較して経済成長や生産性の上昇に大きく寄与していないことが指摘されている。

(2) 研究開始当初の既存研究においては、このような日本と欧米諸国(特に米国)と日本の結果がなぜ異なるのか、その差異をもたらす要因は何か、企業ダイナミクスのプロセスと経済全体の停滞の間にはどのような関係があるのか、IT 化の進展や国際化と企業ダイナミクスのプロセスにどのような関係があるのか等については説明が進んでいない状況であった。

### 2. 研究の目的

(1) 本研究は、IT 化と国際化の進展に注目し、企業ダイナミクスがマクロ経済全体の生産性、雇用創出に与える効果を日本、中国、韓国の企業データを用いて類似性と相違性を定量的に分析することを目的とする。企業ダイナミクスに関する国際比較は OECD を中心に行われてきたが、これらの研究には中国、韓国のような経済の発展段階の異なる国は含まれていない。本研究は、企業ダイナミクスのパターンと影響が欧米とは異なる日本と、日本と類似の制度や産業構造を持っている韓国、経済の発展段階等が日本、韓国と大きく異なる中国と比較することで、企業ダイナミクスの特徴を定量的に明らかにすることが目的である。

(2) 欧米の企業データを使用した研究では、国内企業がグローバル化に伴う国際競争にさらされることで、生産性の高い企業の市場への参入、生産性の低い企業の市場からの退出が加速され、国内マクロ経済の生産性が高まるというプラスの効果が確認されている。グローバル化が企業ダイナミクスに与えた影響を日本、中国、韓国の企業を比較して分析する。特にグローバルバリューチェーンへの参加が企業ダイナミクス、生産性に与えた影響を解明する。また貿易の自由化の影響に関しては、従来の研究で分析対象とされてきた輸入関税削減・撤廃のみならず、水際での非関税障壁の撤廃や、国内規制も含む非関税措置の国家間差異の縮小も考慮に入れて、貿易障壁のコストを計測する。

### 3. 研究の方法

(1) 日本、中国、韓国の企業レベルのデータを整備して、生産性ダイナミクスの計測、IT 化、ロボットの導入、AI の導入が生産性、雇用、生産体制にあたえる効果を計測した。日本、中国の企業、事業所レベルのミクロデータの取得が比較的容易である一方、韓国企業に関しては困難であるため、韓国企業に関しては上場企業のデータを使用して分析を進めた。その際、日本、中国、韓国における全要素生産性(TFP)の上昇率のダイナミクスが比較可能となるよう、各国とも上場企業のデータを使用し、その計測方法等も統一することで国際比較可能なデータベースを構築した。

(2) 中国企業に関しては、関税のデータが利用可能であるため、企業レベルのデータとマッチングすることによって、中国企業の詳細な輸出、輸入状況を把握することが可能となった。この情報を利用して、中国企業のグローバルバリューチェーンにおける位置づけが当該企業の生産性や当該企業の存続に与えた影響、ロボットの輸入が生産性等に与えた影響を分析した。加えてアメリカにおける非関税障壁が中国企業の輸出行動に与えた影響について分析を行った。

### 4. 研究成果

(1) 日本、韓国、中国の上場企業のデータを使用して、1995 年から 2018 年の期間における企業の全要素生産性の上昇率を、インデックス法を用いて計測した。その際、産出物および投入サービスの価格に関して、日本産業生産性(JIP)、韓国産業生産性(KIP)、中国産業生産性(CIP)データベースからの産業別デフレーターの情報を利用した。このように計測されたデータベースを使用して、日中韓の各産業における全要素生産性(TFP)の上昇率の比較及び生産性ダイナミクスを分析した。推計結果によると、2000 年代における TFP 上昇率は製造業においては、日本と中国が堅調である一方、韓国が低迷している。非製造業の TFP 上昇率に関して日本と韓国は、上昇率は低いもののプラス基調にある一方で、中国はマイナス基調にある。加えて、日本、韓国、中国の TFP 上昇率の生産性動学を分析したところ、日本、韓国の製造業の TFP 上昇率の変

動には、内部効果の変動が大きな役割を果たしていることがわかった。特に韓国の製造業の TFP 上昇率において内部効果の大きな低下が観察された。中国の製造業に TFP 上昇率に関しては内部効果に加えて、参入効果が重要な役割を果たしていることが判明した。

(2) 日本の生産性動態に関する先行研究では、経済の生産性が伸び悩んでいる要因の一つとして、生産性の高い企業が市場から退出し、負の退出効果が生じていることが示唆されている。国勢調査データと大規模なマイクロデータを用いて、日本における負の出口効果の検証を行った。作成された大規模マイクロデータを使用して生産性ダイナミクスを分析した結果、日本では実際に負の出口効果が存在し、それが主に少数の生産性の高い企業の退出によってもたらされていることが示された。

(3) 生産性動態の分析方法に企業グループの要因を加味することにより、『経済産業省企業活動基本調査』のマイクロデータを用いて、全要素生産性上昇を、単独企業及び企業グループの内部効果・資源再配分効果に分解し、相対的な重要度を計測した。2000 - 2010 年では、企業グループによる貢献が過半を占めていた。大企業の海外移転や国際化、商法改正、労働者派遣事業の規制緩和などを背景に、グループ企業の内部効果、グループ内の再配分効果、所有構造変更を伴う企業グループのシェア変化による資源配分効果が生産性上昇に大きく貢献した。2010-2018 年では単独企業が係わる効果が過半を占めたが、2000 - 2010 年に比べ減速した。減速の主因は、所有構造変化を通じて企業グループの産業内でのシェアが変化することによる資源再配分効果が大幅に減少したこと、グループ企業の内部効果と、企業グループ内の再配分効果が大幅に減少したことによる。雇用の保障の程度が低い中小企業が含まれる単独企業間では市場競争を通じた淘汰が機能しており、企業グループ間、または企業グループと単独企業との資源再配分以外の再配分は極めて停滞している。企業グループでは、M&A 等を通じて雇用の保障しながら労働の再配分が行われている可能性がある結果が示唆された。

(4) 日本経済は IT 化で遅れており、IT 投資の生産性への恩恵を十分に享受していないこと、これが生産性上昇の長期低迷につながっていることなどが先行研究によって指摘されてきた。2020 年から始まった新型コロナウイルスの感染拡大で、日本経済はデジタルトランスフォーメーション (DX) を強いられているが、DX が企業パフォーマンスに与える影響に関する日本での先行研究は十分ではなかった。本研究は企業のデータを用いて、DX と企業パフォーマンスの関係を分析した。主な知見は以下のとおりである ; (1) IT への投資は企業の生産性と正の相関を持ち、主な貢献はソフトウェアによるものである ; (2) 兼任の情報システム総括役員 (Chief Information Officer, CIO) の設置は企業の生産性と正の相関を持つが、CIO と IT 投資の補完的な関係は確認できない ; (3) スマートフォンやタブレットのような新しい端末の導入と生産性との直接的な関係は確認できない ; (4) 社内でのビックデータの活用と生産性向上の有意な関係は確認できない ; (5) ビックデータの活用の中でもサプライヤー企業とのデータの共有は、企業の生産性と正の関係を持つが、カスタマーとの共有は生産性と負の関係を持つ可能性がある ; (6) 日本本社の IT 投資は海外現地法人の利益率と弱い正の相関がある。

(5) 近年、人工知能 (Artificial Intelligence, AI) のビジネスでの利用が広がり、AI が企業のパフォーマンスにどのようなメカニズムで、どれほど影響するかに関心が高まっている。本研究では、『経済産業省企業活動基本調査』、TSR の企業間取引データ、プレスリリースデータ、IIP パテントデータベース情報などを用いて、企業の AI 導入が企業のパフォーマンスに与える影響を分析する。自社の研究開発によって生み出される AI 関連特許導入に加え、取引先企業 (サプライヤーとカスタマー) の AI 導入を通じた影響も分析する。また、AI による生産過程の効率化 (プロセスイノベーション) に加え、新製品の創出や既存製品の付加価値向上 (プロダクトイノベーション) も分析する。主な結果は以下のとおりである。

AI 関連特許は企業の生産性と正の相関があり、非 AI 特許よりも生産性との関係が強い。

特許出願件数が減少し始めた 2009 年以降も、AI 関連特許と企業生産性の関係は強まっている。

AI 関連特許は主に産業内で中間以上の生産性の企業の生産性に貢献する。生産性の低い企業では AI 関連特許が生産性に負の影響を与える。

取引関係企業の AI 導入が当該企業の生産性に正のスピルオーバー効果をもたらすことは確認できない。

AI 関連特許は企業のプロダクトイノベーション、プロセスイノベーション、技術イノベーションのすべてに強く関係し、特に質の高い AI 関連特許はイノベーションに中期的かつ重要な影響を与える。

( 6 )産業用ロボット輸入が中国企業のパフォーマンスに与える影響を、中国の工業企業データベースと税関データを使用して分析した。実証分析の結果、ロボット輸入は生産性について有意な影響がみられなかった一方で産出量と労働者数については正で有意な影響があることがわかった。貿易面に関して、ロボット輸入のある企業では輸出単価と輸出総額の増加が見られた。また、当該企業については輸入単価の増加と輸入総額の減少が見られた。他方、企業のグローバルバリューチェーンにおける輸出上流度指数と輸入上流度指数はロボット輸入の増加に伴いいずれも減少したが、前者への影響がより大きいことから、ロボット輸入は企業がグローバルバリューチェーン上で担う業務の幅を広げることが明らかになった。

( 7 )中国企業と関税データを用いて、グローバルバリューチェーンにおける中国企業の位置づけが、貿易の継続確率と市場における企業の存続にどのような影響を与えるかを検証した。その結果、上流に位置する企業ほど、貿易活動をより容易に継続できることが示された。続いて、企業のグローバルバリューチェーンにおける位置づけが企業の生存確率に与える影響を推計したところ、上流に位置する企業は、国内市場と国際市場の両方において企業の生存確率が高まることが判明した。これらの研究結果は、グローバルバリューチェーンへの参加だけではなく、その位置付けも企業業績の重要な決定要因であることを示している。

( 8 )中国企業アメリカへ出す際に、アメリカからの輸入拒否が企業の輸出行動に与える影響に関する研究を実施した。分析の結果、輸入拒否は中国企業の市場撤退の可能性を高め、更に市場への(再)参入を阻害する。しかし、輸出を継続することが出来た中国企業のケースでは、輸入拒否は輸出量、価格、品質を増加させる。技術的要求事項の遵守は、市場参入を妨げると同時に、特に発展途上国を拠点とし、技術的要求事項がより厳しい先進国へ輸出する企業の場合、企業の能力向上と競争力強化の に貢献する可能性があることが判明した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計68件（うち査読付論文 23件 / うち国際共著 11件 / うちオープンアクセス 37件）

1. 著者名 荻島駿・権赫旭・児玉直美	4. 巻 22-SJ-06
2. 論文標題 タスク特性と雇用、賃金、生産性の変化	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 JILPT Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荻島駿・権赫旭・児玉直美	4. 巻 -
2. 論文標題 新型コロナ禍でどのような企業が新技術導入を行ったか？	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『検証・コロナ期日本の働き方 意識・行動変化と雇用政策の課題（樋口美雄 / 労働政策研究・研修機構 編）』第10章	6. 最初と最後の頁 213-245
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 A. Penner, T. Petersen, A. Rainey, I. Boza, M. Elvira, O. Godechot, M. Hallsten, L. Henriksen, A. Hermansen, F. Hou, A. Kanjuo-Mrcela, J. King, N. Kodama, T. Kristal, A. Krizkova, Z. Lippenyi, S. M. Melzer, E. Mun, D. Avent-Holt, N. Bandelj, G. Hajdu, J. Jung, A. Poje, M. Safi, M. Soener, D. Tomaskovic-Devey, Z. Tufail	4. 巻 7(2)
2. 論文標題 Within-Job Gender Pay Inequality in 15 Countries	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Nature Human Behaviour	6. 最初と最後の頁 184-189
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41562-022-01470-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Atsuko Izumi, Naomi Kodama and HyeogUg Kwon	4. 巻 67
2. 論文標題 Labor Market Concentration and Heterogeneous Effects on Wages: Evidence from Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of the Japanese and International Economies	6. 最初と最後の頁 101242-101242
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.jjie.2022.101242	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Naomi Kodama	4. 巻 53
2. 論文標題 Income inequality, higher education, and marriage behavior in Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本大学経済学部経済科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 5-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kohei Kawaguchi, Naomi Kodama, Hiroshi Kumanomido, Mari Tanaka	4. 巻 32(4)
2. 論文標題 Using Managers' Expectations for Ex-ante Policy Evaluation: Evidence from the COVID-19 Crisis	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Economics & Management Strategy	6. 最初と最後の頁 714-732
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jems.12515	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 池内 健太、伊藤 恵子、金 榮慇、権 赫旭	4. 巻 23-P-007
2. 論文標題 デジタル化の進展と産業の新陳代謝 日本における企業の雇用と生産性のダイナミクス	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 RIETI Policy Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 YoungGak Kim, Sadao Nagaoka	4. 巻 36(1)
2. 論文標題 Acquisitions by Business Group and Technology Transfer	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Seoul Journal of Economics,	6. 最初と最後の頁 137-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 深尾 京司、金 榮慤	4. 巻 23-J-023
2. 論文標題 企業グループ内の資源再配分がマクロ経済の全要素生産性に与える影響	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 RIETI discussion paper series	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Chun, Hyunbae, Kyoji Fukao, HyeogUg Kwon, Jungsoo Park	4. 巻 23(1)
2. 論文標題 Why Do Real Wages Stagnate in Japan and Korea?	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Asian Economic Papers	6. 最初と最後の頁 116-139
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1162/asep_a_00882	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 児玉直美	4. 巻 205
2. 論文標題 世帯構造の変化と家族による共助の弱体化：非婚化・晩婚化・同類婚と所得格差拡大	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経済分析	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 泉敦子、児玉直美	4. 巻 43
2. 論文標題 人材獲得競争と企業のインセンティブ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本経済法学会年報	6. 最初と最後の頁 84-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Godechot, Olivier, Nils Neumann, Paula Apascaritei, Istvan Boza, Martin Hallsten, Lasse Henriksen, Are Hermansen, Feng Hou, Jiwook Jung, Naomi Kodama, Alena Krizkov, Zoltan Lippenyi, Elvira Marta, Silvia Maja Melzer, Eunmi Mun, Halil Sabanci, Matthew Soener, and Max Thaning	4. 巻 21(3)
2. 論文標題 Ups and downs in finance, ups without downs in inequality	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Socio-Economic Review	6. 最初と最後の頁 1601-1627
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/ser/mwac036	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ikeuchi Kenta, YoungGak Kim, HyeogUg Kwon, Kyoji Fukao	4. 巻 40(1),
2. 論文標題 Productivity Dynamics in Japan and the Negative Exit Effect	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Contemporary Economic Policy	6. 最初と最後の頁 204-217.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/coep.12546	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 乾友彦	4. 巻 -
2. 論文標題 日本企業による設備投資と無形資産投資、中国企業のTFP及びIT投資、R&D投資の効果	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 財務総合研究所「生産性・所得・付加価値に関する研究会の報告書」第9章	6. 最初と最後の頁 121-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tomohiko Inui, Hiroko Okudaira	4. 巻 22-E-049
2. 論文標題 Parental Investment after Adverse Event: Evidence from the Great East Japan Earthquake	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 金榮慤、乾友彦	4. 巻 -
2. 論文標題 AI,ロボット技術の進展と企業パフォーマンス	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 馬奈木俊介編『社会問題を解決するデジタル技術の最先端』第3章	6. 最初と最後の頁 69-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuyasu Kawasaki, Tomohiko Inui, Tsutomu Miyagawa,	4. 巻 17(1)
2. 論文標題 The effect of management practices on the performance of bus enterprises	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Economic Policy Studies	6. 最初と最後の頁 133-161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s42495-022-00097-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 楊 起中、乾 友彦、金 榮慤	4. 巻 23-J-020
2. 論文標題 ロボット輸入が中国企業のパフォーマンスに与える影響	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 池内 健太、乾 友彦、金 榮慤	4. 巻 23-J-034
2. 論文標題 日本企業のAI導入と生産性：スピルオーバー効果とイノベーション効果	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 乾 友彦、枝村 一磨、Russell Thomson	4. 巻 23-J-035
2. 論文標題 産学連携と企業の研究パフォーマンス	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Xinxin Ma, Atushi Kawakami, Tomohiko Inui, Meng Zhao (Konishi)	4. 巻 23-E-069
2. 論文標題 The Impact of Long Working Hours on Mental Health Status in Japan: Evidence from a National Representative Survey	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 深尾 京司、乾 友彦、金 榮慤、権 赫旭、池内 健太	4. 巻 23-J-026
2. 論文標題 デジタルトランスフォーメーションが生産性と企業内の資源再配分に与える影響	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 深尾 京司、乾 友彦、金 榮慤、権 赫旭、張 紅詠	4. 巻 23-J-022
2. 論文標題 東アジア上場企業（EALC）データベースの作成とTFP上昇率の比較	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 川上 淳之、乾 友彦、馬 欣欣	4. 巻 23-J-041
2. 論文標題 職場の環境と不妊治療 -インターネット調査を用いた分析-	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tomohiko Inui, Ayako Obashi, Qizhong Yang	4. 巻 930
2. 論文標題 Impact of border rejection experience on export performance: Firm-level evidence from China	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 IDE Discussion paper	6. 最初と最後の頁 1-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20561/0002000982	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 乾 友彦、池田雄哉、柿埜真吾	4. 巻 -
2. 論文標題 人的資本の経済効果：高等教育はイノベーションを高めるか？	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 深尾京司編『サービス産業の生産性と日本経済：JIPデータベースによる実証分析と提言』第8章	6. 最初と最後の頁 257 279
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tomohiko Inui, Kenta Ikeuchi, Ayako Obashi, and Qizhong Yang	4. 巻 166
2. 論文標題 The impact of regulatory distance from global standards on a country's centrality in global value chains	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Economics	6. 最初と最後の頁 95-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.inteco.2021.03.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tomohiko Inui, Ayako Obashi, Qizhong Yang	4. 巻 No.930
2. 論文標題 Impact of border rejection experience on export performance: Firm-level evidence from China	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 IDE Discussion paper	6. 最初と最後の頁 1-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 池内 健太, 乾 友彦、金 榮慤	4. 巻 23-J-034
2. 論文標題 日本企業のAI導入と生産性：スピルオーバー効果とイノベーション効果	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 深尾 京司、乾 友彦、金 榮慤、権 赫旭、池内 健太	4. 巻 23-J-026
2. 論文標題 デジタルトランスフォーメーションが生産性と企業内の資源再配分に与える影響	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 深尾 京司、乾 友彦、金 榮慤、権 赫旭、張 紅詠	4. 巻 23-J-022
2. 論文標題 東アジア上場企業（EALC）データベースの作成とTFP上昇率の比較	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 楊 起中、乾 友彦、金 榮慤	4. 巻 23-J-020
2. 論文標題 ロボット輸入が中国企業のパフォーマンスに与える影響	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tomohiko Inui, Kenta Ikeuchi, Ayako Obashi, and Qizhong Yang	4. 巻 166
2. 論文標題 The impact of regulatory distance from global standards on a country's centrality in global value chains	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Economics	6. 最初と最後の頁 95-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.inteco.2021.03.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kyoji Fukao, YoungGak Kim, HyeogUg Kwon,	4. 巻 40
2. 論文標題 The Causes of Japan's Economic Slowdown: An Analysis Based on the Japan Industrial Productivity Database	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Productivity Monitor	6. 最初と最後の頁 56-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kenta Ikeuchi, YoungGak Kim, HyeogUg Kwon, Kyoji Fukao	4. 巻 40
2. 論文標題 Productivity dynamics in Japan and the negative exit effect	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Contemporary Economic Policy	6. 最初と最後の頁 204-217
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/coep.12546	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 深尾京司、金榮慤、権赫旭	4. 巻 21-J-027
2. 論文標題 長期上場企業データから見た日本経済の成長と停滞の源泉	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ayako Obashi, Fukunari Kimura	4. 巻 35
2. 論文標題 New Developments in International Production Networks: Impact of Digital Technologies	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asian Economic Journal	6. 最初と最後の頁 115-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/asej.12240	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kaoru Nabeshima, Ayako Obashi, Kunhyui Kim	4. 巻 59
2. 論文標題 Impacts of additional compliance requirements of regulations on the margins of trade	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Japan and the World Economy	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.japwor.2021.101088	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Mitsuyo Ando, Fukunari Kimura, Ayako Obashi	4. 巻 20
2. 論文標題 International Production Networks Are Overcoming COVID-19 Shocks: Evidence from Japan's Machinery Trade	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asian Economic Papers	6. 最初と最後の頁 40-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1162/asep_a_00835	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Juthathip Jongwanich, Archanun Kohpaiboon, Ayako Obashi	4. 巻 151
2. 論文標題 Technological advancement, import penetration and labour markets: Evidence from Thailand	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 World Development	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.worlddev.2021.105746	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kodama, Naomi, Yoshiaki Murakami, Mari Tanaka	4. 巻 62
2. 論文標題 No Successor, No Success? The Impact of a Little Son on Business Performance	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of the Japanese and International Economies	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jjie.2021.101169	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawaguchi, Kohei, Naomi Kodama, Mari Tanaka	4. 巻 61
2. 論文標題 Small Business under the COVID-19 Crisis: Expected Short- and Medium-Run Effects of Anti-Contagion and Economic Policies.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of the Japanese and International Economies	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jjie.2021.101138	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 枝村一磨、乾友彦	4. 巻 37
2. 論文標題 企業における研究者の多様性と特許出願行動	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 研究技術計画	6. 最初と最後の頁 6-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Qizhong Yang, Tomohiko Inui	4. 巻 15
2. 論文標題 Position in Global Value Chains, Trade Duration, and Firm Survival: Empirical Evidence from China	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 青山学院大学・経済研究所 ワーキングペーパー	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tomohiko Inui, Kenta Ikeuchi, Ayako Obashi, Qizhong Yang	4. 巻 166
2. 論文標題 The impact of regulatory distance from global standards on a country's centrality in global value chains	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Economics	6. 最初と最後の頁 95 - 115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.inteco.2021.03.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 乾 友彦、金 榮慤	4. 巻 20-E-083
2. 論文標題 Exchange Rates, International Outsourcing, and Firm Export Dynamics	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤 恵子、乾 友彦、Heiwai Tang、古沢 泰治	4. 巻 20-P-027
2. 論文標題 日本の製造業のサービス化	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 RIETI Policy Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する



1. 著者名 金 榮愨、乾 友彦	4. 巻 21-J-009
2. 論文標題 AI、ロボット技術の進展と企業パフォーマンス	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 金 榮愨、乾 友彦	4. 巻 21-J-013
2. 論文標題 IT化と生産性、国内外の企業内資源配分	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 鈴木 真也、乾 友彦、池田 雄哉	4. 巻 21-J-012
2. 論文標題 外国企業によるM&Aが被買収企業のイノベーション活動に与える影響	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 乾友彦、張紅詠、金榮愨	4. 巻 71
2. 論文標題 日中韓の輸出企業のダイナミクスの比較	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学習院大学 東洋文化研究所 調査研究報告	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 泉敦子、児玉直美、権赫旭	4. 巻 48
2. 論文標題 労働市場集中度と賃金、雇用、退出 最低賃金上昇の自然実験を使った実証研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 経済統計研究	6. 最初と最後の頁 18 - 55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 深尾京司、金 榮慤、権 赫旭、池内健太	4. 巻 21-J-015
2. 論文標題 アベノミクス下のビジネス・ダイナミズムと生産性上昇：『経済センサス-活動調査』調査票情報による分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 金 榮慤、権 赫旭、深尾京司、池内健太	4. 巻 21-J-016
2. 論文標題 電子商取引と企業パフォーマンス、経済のダイナミズム：『経済センサス 活動調査』調査票情報による実証分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Bin Ni, Ayako Obashi	4. 巻 57
2. 論文標題 Robotics Technology and Firm-level Employment Adjustment in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Japan and the World Economy	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.japwor.2021.101054	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kaoru Nabeshima, Ayako Obashi	4. 巻 59
2. 論文標題 Impact of Regulatory Burdens on International Trade	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of the Japanese and International Economies	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jjie.2020.101120	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金榮慤・乾友彦	4. 巻 20-J-023
2. 論文標題 ITサービス化は日本企業の生産性を高めるか：クラウドコンピューティング、CIOと日本企業のパフォーマンス	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 乾友彦・川上淳之・馬欣欣・趙(小西)萌	4. 巻 19-E-061
2. 論文標題 Does Mental Health Affect Labor Market Outcomes? Evidence from a National Representative Survey in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 乾友彦・川崎一泰・伊藤由希子・宮川努・真野俊樹	4. 巻 19-J-049
2. 論文標題 特別養護老人ホームのマネジメントとパフォーマンス	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川崎一泰・乾友彦・宮川努	4. 巻 19-J-051
2. 論文標題 乗合バス事業における経営管理がパフォーマンスに与える影響	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kodama, Naomi, Huiyu Li	4. 巻 19-E-026
2. 論文標題 Missing Growth in the Lost Decade.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 深尾京司・権 赫旭・金 榮慤	4. 巻 No.708
2. 論文標題 観光産業の生産性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本労働研究雑誌	6. 最初と最後の頁 17-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 深尾京司・権 赫旭・金 榮慤	4. 巻 19-J-040
2. 論文標題 日本経済における資源の再配分による産業のダイナミクス 事業所・企業統計調査及び経済センサスによる実証研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6. 最初と最後の頁 1 - 36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1．著者名 池内健太・伊藤恵子・深尾京司・権赫旭・金 榮慤	4．巻 19-J-066
2．論文標題 日本における雇用と生産性のダイナミクス OECD DynEmp/MultiProd プロジェクトへの貢献と国際比較	5．発行年 2019年
3．雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6．最初と最後の頁 1 - 31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1．著者名 Timothy Destefano, Sho Haneda, HyeogUg Kwon	4．巻 19-E-067
2．論文標題 Determinants of Structural Adjustment and Employment Use in Japan: Firm Characteristics, Offshoring and Industrial Robotics	5．発行年 2019年
3．雑誌名 RIETI Discussion Paper Series	6．最初と最後の頁 1 - 37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 金 榮慤・権 赫旭・深尾 京司	4．巻 19-P-022
2．論文標題 日本経済停滞の原因と必要な政策：JIP 2018による分析	5．発行年 2019年
3．雑誌名 RIETI Policy Discussion Paper Series	6．最初と最後の頁 1 - 21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1．著者名 Ayako Obashi	4．巻 16（1）
2．論文標題 Expansion and Deepening of Production Networks	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Public Policy Review	6．最初と最後の頁 17 - 46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計20件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 11件）

1. 発表者名 Tomohiko Inui, YoungGak Kim
2. 発表標題 AI and firm performance: Evidence from Japanese firms
3. 学会等名 Western Economic Association International ( 国際学会 )
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 楊 起中、乾 友彦、金 榮慤
2. 発表標題 ロボット輸入が中国企業のパフォーマンスに与える影響
3. 学会等名 日本経済学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Tomohiko Inui, Ayako Obashi, Qizhong Yang
2. 発表標題 Strategic Response of Rejected Firms: Evidence from the US Import Refusals against Chinese Shipments
3. 学会等名 慶應義塾大学国際経済学ワークショップ
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Qizhong Yang, Tomohiko Inui
2. 発表標題 Position in Global Value Chains, Trade Duration, and Firm Survival: Empirical Evidence from China
3. 学会等名 IDE-JETRO International Productivity Workshop ( 国際学会 )
4. 発表年 2023年

1 . 発表者名 Tomohiko Inui, Kazuyasu Kawasaki, Yukiko Ito, Tsutomu Miyagawa, Toshiki Mano
2 . 発表標題 Management Practices and Labor Productivity in Intensive Care Homes for the Elderly
3 . 学会等名 The Japan Economic Policy Association ( 国際学会 )
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Tomohiko Inui, Ayako Obashi, Qizhong Yang,
2 . 発表標題 Strategic Response of Rejected Firms: Evidence from the US Import Refusals against Chinese Shipments
3 . 学会等名 長崎大学経済学会 ( 国際学会 )
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Tomohiko Inui, Ayako Obashi, Qizhong Yang,
2 . 発表標題 Impact of Border Rejection Experience on Export Performance: Firm-level Evidence from China
3 . 学会等名 Hitotsubashi-Gakushuin Conference on International Trade and FDI 2023 ( 国際学会 )
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Qizhong Yang, Tomohiko Inui
2 . 発表標題 Position in Global Value Chains, Trade Duration, and Firm Survival: Empirical Evidence from China,
3 . 学会等名 国際経済学会第80回大会
4 . 発表年 2021年

1．発表者名 児玉直美
2．発表標題 人材獲得競争と企業のインセンティブ
3．学会等名 日本経済法学会2022年大会
4．発表年 2022年

1．発表者名 児玉直美
2．発表標題 人材獲得競争と企業のインセンティブ
3．学会等名 東京経済法学会(オンライン)
4．発表年 2022年

1．発表者名 児玉直美
2．発表標題 Labor Market Concentration and Heterogeneous Effects on Markdowns: Evidence from Japan
3．学会等名 経済セミナー．同志社大学
4．発表年 2022年

1．発表者名 Qizhong Yang, Tomohiko Inui
2．発表標題 Position in Global Value Chains, Trade Duration, and Firm Survival: Empirical Evidence from China,
3．学会等名 日本経済学会2021年度秋期大会(オンライン)
4．発表年 2021年



1 . 発表者名 Qizhong Yang, Tomohiko Inui
2 . 発表標題 Position in Global Value Chains, Trade Duration, and Firm Survival: Empirical Evidence from China ”
3 . 学会等名 Asia Pacific Trade Seminars ( 国際学会 )
4 . 発表年 2022年

1 . 発表者名 Qizhong Yang, Tomohiko Inui
2 . 発表標題 Position in Global Value Chains, Trade Duration, and Firm Survival: Empirical Evidence from China
3 . 学会等名 Western Economic Association International ( 国際学会 )
4 . 発表年 2022年

1 . 発表者名 金榮慇、乾友彦
2 . 発表標題 AI、ロボット技術の進展と企業パフォーマンス
3 . 学会等名 日本経済学会2021年度秋期大会(オンライン)
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Young Gak Kim
2 . 発表標題 The Effect of Imported Intermediate Inputs on Firm Performance: Firm and Establishment Level Evidence from Japan
3 . 学会等名 WEAI 94th Annual Conference ( 国際学会 )
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Naomi Kodama
2 . 発表標題 Missing Growth in the Lost Decade
3 . 学会等名 日本經濟学会2019年度秋季大会（神戸大学）
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Ayako Obashi
2 . 発表標題 Technology and Employment Dynamics in Japan
3 . 学会等名 Japan Economy Workshop, University of Hawai'i ( 国際学会 )
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 Ayako Obashi
2 . 発表標題 New Developments in International Production Networks: Impact of Digital Technologies
3 . 学会等名 Fukushima Economics Workshop 2019 ( 国際学会 )
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Ayako Obashi
2 . 発表標題 New Developments in International Production Networks: Impact of Digital Technologies
3 . 学会等名 NBER 30th East Asian Seminar on Economics ( 国際学会 )
4 . 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1．著者名 池田雄哉、乾友彦	4．発行年 2020年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 16
3．書名 『A Iは社会を豊かにするのか：人工知能の経済学』第9章：高度人材とイノベーション A I導入へのインプリケーション	

1．著者名 Kaoru Nabeshima , Ayako Obashi	4．発行年 2020年
2．出版社 UNCTAD	5．総ページ数 10
3．書名 Non-Tariff Measures in Australia, China, India, Japan, New Zealand, and the Republic of Korea: Preliminary Findings: Chapter 5 - Non-Tariff Measures in Japan	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	児玉 直美  (Kodama Naomi)  (10573470)	明治学院大学・経済学部・教授   (32683)	
研究分担者	小橋 文子  (Obashi Ayako)  (30528922)	青山学院大学・国際政治経済学部・准教授   (32601)	
研究分担者	金 榮慤  (Kim YoungGak)  (50583811)	専修大学・経済学部・教授   (32634)	

6．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究 分 担 者	権 赫旭  (Kwon HyeogUg)  (80361856)	日本大学・経済学部・教授     (32665)	

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------